内郷村報

天法人則ニ從順ナルベシ

勅題　海上雲遠　東京　遠藤二郎

昇る日にさはるともなくたなびきて
海のそきへに雲ぞにほへる

吾等は須らく七福神に學べ

大内民惠

これは、昭和十一年一月一日、淺野翁頌德記念館に開催せられたる磐城炭礦々業所、役付從業員聯合新年祝賀會に於て述べたる祝辭の大要を、改訂增補したものであります。

本日は吉例によつて、**七福神**にちなんで、祝辭と希望とを述べさせていたゞきます。七福神といへば、聞くからに何となく朗かなおめでたい氣分になります。今日は一つ大に緣起をかついで、其由來と、其學ぶべき点とを申上げて見やうと思ひます

徳川家康が、天下をとつて間もない頃、其崇信して居つた天海僧正に、治國平天下の道を問はれた處、僧正は、仁王護國經の、七難即滅、七福即生、帝國歡喜の一節を引いて、壽命、有福人望、清廉、愛敬、威光、度量の七德を說き、其七德を代表する、神樣なり人物なりと描いて、禮拜させると、知らず〳〵の間に、それが心に泌みこみ、自然に良風美俗を馴致し、天下大平を招來する事を說きたるに、家康大に之を喜び、其選擇方を命じたので、僧正は即ち

一、壽命―壽老人―支那の仙人
二、有福―大黑天―日本の神
三、人望―福祿壽―支那の仙人
四、清廉―惠比壽―日本の神
五、愛敬―辨財天―印度の神
六、威光―毘沙門―同
七、度量―布袋―支那の禪僧

以上の如く、七福に對する七福神を選出して、之を狩野松榮に描かせて、天下に宣布したのが、七福神の出來た由來なのであります。其一々について、簡單に申上げますが、七福神の第一番に

壽老人の選ばれたのは人生幸福の第一は、壽命長久にあるといふ事を示すもので、壽老人は延壽の神樣であります。人々は心がけ次第、節制の如何によつては、長生もすれば、短命ともなるのであります。即ち健康第一を示さるゝ神樣であります。第二番の

大黑天は、一般には大國主命と申して居りますが、一說には、佛法を守護し、食糧を豊かにして下さる、天竺の摩訶迦羅であるとも申して居りますが、其何れにしても、親愛のあふるゝ、福々しい神樣であります。いかに長生をしても、貧乏では致し方がない、精勵恪勤、有福でなくては仕合せでないといふ事を敎へる神樣で、又おやさしい御親切な處から緣結びの神樣として、信仰せらるゝに到つたのであります。

第三番の

福祿壽は人望の神樣で如何に長生をして有福であつても、人望がなくてはならぬ。世の中の人が、あの人はよい人だ、立派な人だと、崇拜せられてこそ、始めて其幸福が意義をなして來るのであります。

第四番の

惠比壽は、事代主命とも、少彦名命とも申されて居りますが、其何れにしても、大國主命をめぐつてよく國土を治め一度天照皇大神の勅命あるや、一議に及ばず、全國土を奉る案を、協贊したのであります。心の直ぐな、無欲な、清らかな、即ち清廉潔白の神樣なのであります。之を商賣の神樣として崇められるのは、商賣といふものは、兎角我利に走り易いものでありますから、それを愼む爲に、正直を建前として、正しく稼業を勵むことが、眞に商賣繁昌を來たす基をなすものであるといふ處から來たのであると思はれます。第五番に

辨財天を配したのは、清廉を旨とすると、どうしても無愛相になりがちです。そこで愛敬の神、玉のやうな天女、辨財天をして、ニツコリ笑はせやうといふ、いかにも穩當な順序立てであります。別に辯財天といふ神樣もあるのですが、此二神とも、柔和温情、愛情等の神樣であり、又藝術の神樣でもあるのであります。ふつくりとふくらみのある、而して萬藝に秀づる事が、辨財天の持前なのであります。但し人間は、兎角愛敬に過ぐると、弱くなり勝ちです。そこで第六番には、威光あたりと拂つて凛然たる

毘沙門天を配したのであります。人には强きを持して、敢て下らざる威嚴がほしいものです。而して其威嚴は正しい道理の上に立つて、始めて光あるものなのであります

毘沙門天は福德を與へるの

謹賀新年

昭和十一年一月一日

大内民惠
大内きみ
大内二郎
卷幡みつ
卷幡胖
馬場善信
山口藤二
大内一郎
鈴木敏夫
鈴木信雄
甲斐根丑治

北海道清水町
同
同
杉田本宅留守居

内郷村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各團體の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。
四、村内の善事美行を奬彰し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社說は子孫に對する遺言を兼ぬるものなり。

昭和十一年一月一日發行

本紙定價一部金五錢一ケ年前金五十八錢
郵便料石城郡内郷村官字宮添二
發行所　内郷村報社
編輯發行兼印刷人　右仝所　大内民惠
印刷所　福島縣石城郡平町一丁目二九　平活版所

てるとしまして、目下の處は之で間に合せて置きたいと思ひます。一昨日より第四線道路の工事が始まりました。救濟工事で、七區八

便いたしましたが、聞いに要求者以外の人々中に、希望者が多數あるそうなので、其人々の爲に楽檻して、昨日限りで止めました。そして小生の勞務、部落で本當

歳に參り、到着して居りました
をうけとり、意氣揚々と山莊に引
上げ開箱いたしました。次々と色
々の物が出て參りますので、一同
大喜びでした。洋服は何れも丁度

てるとして、其の結果、
つて來て居るので、それが分る迄
支拂を見合せておきました。屋根
の方五十嵐に問ひ合せておいたの
で、昨日訪ねました處、矢張來春

に善根の人を選び、名譽や利慾を事とする人を避けたといふのであります。つまり正義の神であります。其一名を多聞天と申しまして大楠公は其兩親が、信貴山の毘沙門天に祈つて、生れた處から、其幼名を多聞丸と申したといふ事は、有名な話であります。第七番の

布袋和尚は支那の梁の時代の人で、額の幅が廣く、腹はでつぷりとした大鼓腹、大きな袋を荷ふて托鉢をして廻り、食べた餘りは袋の中に收めものごし悠々を極め、顏は笑で一杯で、人が嘲らうが罵らうが、我關せず焉である。幸福の條件として、最後に必要なものは、この大度量である事を、布袋和尚によつて示したもので、又眞の幸福は、必ずしも美衣美食にあるのではなく、純眞一如、思ひよこしまなる處なく、大きな袋の中には食べ殘りの食物ではなく、實は無一物といふ、清貧の極致を收めてあると云ふべきであります。

さて今日こゝに御列席の諸君は、五千人の從業員中より、以上申上げた七德を兼備する處から、其選拔をうけて、名譽職につかれた事と存じます。新年と共に其御名譽を御祝申上げます。

尙此上は、朝夕此七德に反する点なきか、此七德を實現しつゝあるや否やを、絶えず反省して、修養をつまれ、其御職責を完うせられん事を、此年頭にあたつて衷心より念願して、新年の祝辭といたす次第であります。

新任親和會世話役

磐炭に於ては、各方部會員の推薦を基礎として、愼重なる詮考の下に、昭和十一年度の親和會世話役を決定し、礦業所より一月一日附を以て、左の諸氏を任命した。其順序は區順により、氏名の上の「長」は支部長「副」は副支部長「書」は書記の略號である。

◎峯根　九名
大和田赳造　佐川　千秋
副尾形八百次　道山辰之助
書阿部佐太郎　齋藤幸之進
小島　茂　高橋　岩藏

◎平太郎　三名
長内海　安治
副鈴木　春義　書菊地　庄治

◎町田　一一名
長正木千代三
佐藤石太郎　長根本　壽政
佐藤啓三郎　副松沼　六郎
書吉田　利政　副高木　壽
大倉　三助　廣瀨　金吉
管野　慶助　田中龜太郎
佐藤　豊次

◎宮澤　一四名
木下　茂義　植田　吉一
名和小三郎　大倉平太郎
島畑　國松　石井　鐵夫
副木村　武夫　佐藤　彌平
阿部　新喜　書金見　倫三
小沼　高綱　水田作兵衛
今府　爲之長鈴木　喜平

◎高坂　二九名
大空　顯祐　副五十嵐利平
高橋　藤吉　大友　平吉
阿部　寛光　菊地　學治
佐久間　正藤沼　三藏
大木忠兵衛　小川　喜一
副樋口　義一　佐藤　勇資
書鈴木　武松　工藤　俊一
畑山傳三郎　三坂　廣　佐藤　鶴吉
大場　久三　渡邊　源七
後藤　勇治　山家今朝吉
小又竹次郎　鹿又　聰
草野喜久雄　渡邊新三郎
中島竹次郎　高萩　源藏

長根本　繁

◎綴　一八名
佐久間若鶴　副鈴木　銀司
佐藤直太郎　森田　丑藏
國見　四郎　書三瓶　與吉
池田　眞一　塙　秀男
佐藤　忠一　長佐藤　福松
澁井　義尉　木田　道愛
熊田　周吉　海野初太郎
粂田　榮作　古泉己代治
佐久間清助

◎平　二名
鈴木　三郎　大谷榮三郎

以上總員八六名

親和會世話役表彰式

昭和九年度任命の磐炭親和會世話役は、舊臘十二月任期滿了したるを以て、十二月二十二日午后四時より、淺野翁記念館に於て、之れが表彰式を擧行した。上原主任の挨拶、濱崎副所長慰勞の辭、會田病院長の祝辭あり、記念品として鐵製大火鉢及鐵瓶を贈られ、式後引きつゞき慰勞會にうつり各自十二分の歡を盡して、午后八時散會した。

磐炭參拜團

吉例により磐炭從業員百八名は、勞務係武藤義造伊藤吉三郎粒來宗吉の三氏に率ゐられ、十二月三十一日午後五時綴驛出發、成田、震災記念堂、淺草、宮城、淺野社長邸、泉岳寺、乃木神社、明治神宮、前川專務邸靖國神社等を、參拜、遙拜訪問して、一日午後十一時歸山した。本社よりは濱崎弘喜氏をして、案內歡待の勞をとらしめたる由。

村會

十二月十六日午後一時村役場に開議、寄附採納の件、昭和十年度內郷村歲入出追加豫算議決の件、保安林解除の件、町村の廢置分合に關する意見回答の件の四件を附議決定した。

方面事業取扱數

方面委員の取扱ひたる、十二月分の件數は左の通りである。生活扶助、法令によるもの二五。然らざるもの一二。兒童保護、法令によるもの一二、然らざるもの三六。相談指導二六。戶籍整理四。職業其他の紹介二二。敎化一二。計一四九件第一種世帶數、三六。人口一三〇。第二種世帶數、九九、人口四六三。以上

海上雲遠　郡山　岡部　重吉
沖つ邊の島かと見えし白雲に
朝日の影のさしそめにけり
同　湯本　岩堀　宅治
紫に緋を織り交せて曉の
沖つめを島結ふ帶雲
新年述懷　須賀川　太田　貞喜
初日の出おろかみて先つ思ふ哉
わが方面にかはりなきやと

◎本紙贊助金寄贈芳名

金壹圓　北海道　吉野喜太郎
金壹圓　玉川　齋藤晃
金五圓　平　阿部政右工門
金壹圓　郡山　大橋芳治
金五圓　北海道　淺見寅松
金壹圓　東京　菊地平之亟
金貳圓　小濱　丹羽榮太郎
金壹圓　內郷　松本大
金拾圓　內郷敎育會

（第三種郵便物認可）

矢野恒太 服部宇之吉 序 大內民惠 著
敎育制度改革概論
（四六版二一一頁　定價五十錢　郵稅六錢）

行き詰れる現代の敎育制度を解體して、學理と實際と、歷史と實驗とから新に大內案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國敎育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大綱神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打メレ申候云々。

磐炭八分配當

磐城炭礦では、全山總親和は勿論、神前お榊取替等に

天理敎徒の奉仕

天理敎內郷支部會に於ては數年來每年五月十八日を期

展覽會には、先般女師附屬小學校に開催、出品校二百七十七校、出品点數四千三百三十六点、嚴選の結果入賞政一、片桐兵三、濱崎末吉△宮第三校渡邊たつの、高萩信子、井上惠一。

發行所　日本評論社　東京京橋三丁目
取次所　內郷村報社

磐炭八分配當

磐城炭礦では、全山總親和總努力の結果、昨年度後期に於ても、株主には八分の配當を行ひ、四百名の役員には、それ〳〵二ヶ月乃至五ヶ月分の賞與金、五千名の從業員には、稼高に應じて洩れなく酒肴料を頒與したる由である。

新年祝賀式

一、役場　午前八時
二、學校　同　九時
三、磐城炭礦役員、同十時
　會場　淺野翁頌德館
四、同從業員
　イ綴　山神社　同八時半
　ロ高坂山神社　同九時
　ハ内郷山神社　同九時半
五、同役付諸員　同十一時
　會場　淺野翁頌德館

は勿論、神前お榊取替等に到る迄、誠心誠意の奉仕を其所屬する町田坑更生團より認められ、賞與せられた金を其まゝ寄贈せられた事がわかつた。尚同氏は昭和五年以來匿名を以て、記者を通じて、貧困者に金品を寄贈せられた篤行家である。宮澤方面の人と思はるゝが、それ〳〵苦心して調査したが、其何人であるかを知る事が出來なかつた。多分一昨年末の寄贈者と同人と思はれる。眞に感謝に堪へぬ次第である。因みに前者は金壹圓後者は金參圓で何れも内郷村助成會に納入、舊年末賑恤費に加へる事とした。

匿名の篤行家

舊臘二名の匿名氏から、貧困者に上げてくれる樣にと金員の寄贈があつた。其一名は方面委員猪狩喜平治氏に托せられたので、氏は種々取調べた結果、町田坑の職工岩崎義美氏で、同氏は敬神崇祖の念篤く、年來勤務の余暇を利用して、内郷山神社の社殿及境内の洒掃

方面委員例會

十二月二十六日村役場に開催。舊年末賑恤の件其他の諸件につき協議決定した。因みに同情週間に於ける、寄贈報告濟みの分は左の通りである。

小島　二三圓五〇錢
御厩　一九圓六五錢
御臺境　一四圓四五錢

天理教徒の奉仕

天理教内郷支部會に於ては數年來毎年五月十八日を期して、ひのきしんデーと稱して、献身的の奉仕作業を行つて來たのであるが、舊臘には特に、十二月十八日二十余名の善男善女が出動して、白水方部の道路修理

海上雲遠　平町　眞木鮒吉
みどりにも海原はれて雲の影
あるかなきかにいと遙かなる
新年述懷　東京　角地藤太郎
國體の天皇政治を誇れかし
疑會中心主義は叛逆
初詣　安逢　森翠雨
ふり仰ぐ鉾杉高し初詣
歳旦　福島　藤田貞雄
銀翼の雲間はるかや海の春
同　内郷　田口淳三
愛の手を捧げて拜む初日の出
朝暉赫々曉氣薫　東京　三神有吉
龍種誕生皇礎固　鳳闕仰看横瑞雲
丙子元旦　安逢　渡邊道眠
海上雲遠瑞雲鮮　百川盡朝神洲邊
東洋天外極高妙　萬邦仰看不二巔
職雲は遠し四海は波靜か　内郷　井出金次郎

を行つたので、部落の人々は非常に之を德とし、信仰に生きる人々でなければ、到底出來ない事であると、感激して居る。黑頭巾生投

書道入賞兒童

第四回縣下小學校兒童書方

展覽會は、先般女師附屬小學校に開催、出品校二百七十七校、出品点數四千三百三十六点、嚴選の結果入賞六百七十五点を出し、本村からは左記十名が入選して此程見事なる賞狀を送つて來たとの事である。

△高坂尋高校
大和田くに、大和田千惠子
黑坂ちゑ、飯田榮一、管野
政一、片桐兵三、濱崎末吉
△宮第三校
渡邊たつの、高萩信子、井上惠一。

開拓記錄（八）

北海道十勝國上川郡清水町北清水　大内一郎

拜啓　一日附御端書昨日拜見いたしました。母上樣も御無事御歸宅の由、一同安心いたしました。嘸大賑やかな事と存じます。火の元用心も、お母さんが居られなくなつたので、すつかり緊張して、寢る前には三ケのバケツに、水を一杯入れて置くことに致しました。目下の處、來春新らたに起す場所の倒木を整理して、全部薪にして居ります。腐れて居るが、仲々ある樣で御座います。起床六時で、仕事上りは大抵午後四時半遲くて五時頃です。炊事當番は、起床も仕事上りも、三十分宛早う御座います。今週は敏夫君が當番で、ストーブの前に、ゴザを敷いて目醒時計を枕にしていれ、信雄君は風公當番旁々二階上段の間に、小生は佛間にやすんで居ります。晝食は大抵蒸しパンにして、夜の中に三日分位ふかして置きます。朝神佛禮拜後、山崎延吉先生の「農道訓」一章宛朗讀いたして居ります夜は各自勉强をする事にしてありますが、今は專ら一日中の、食事營養價計算にかゝつて居ります。馬、豚、兎共に健在です。雪は七寸位ですが、此二三日は晴天で、迚も暖かです。食事献立表は一週間後に御送りいたします。それから一昨日、綴の濱崎夫人から、森永のエルゲン三箱と、生魚十尾を送られてまゐりました。それで昨夜は蒸しパンにフライと洒落れ、ナイフとフォークで、いとも見事に食べましたが、二少年も滿足の樣でした。昨日から澤庵漬を出し始めました。また少し早い樣ですが仲々うまいです。花咲號の種附料金六円を、二日に村上さんが取りに來られたので差上げました。小生の所は補助がないそうです。それから櫻號の「モクシ」を作つてもらひました。之は放牧中親馬の乳を呑ませない爲に、口にはめるもので圖のやうなものです。（圖は略す）二郎公にもよろしく

十二月五日朝

拜復　本日お母さんよりの御手紙誠に有り難う御座いました。急行も大滿員であつたとの事、何程か

教育制度改革概論

矢野恒太序　大内民惠著
服部宇之吉序
（四六版二一一頁　定價五十錢　郵税六錢）

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威

前京大總長小西重直博士

書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思感激ニ打タレ申候云々。

發行所　日本評論社　東京京橋三丁目
取次所　内郷村報社

果樹組合總會

内郷村果樹組合では、十二月七日一の矢神社に總會を開き、引きつゝき齋藤神谷農試分場長の、果樹剪定に關する實地指導があつた。

お疲れになつた事と存じます。其後引きつゞきの御來客、それに會員も百二十名と來ては、又々お忙い事と存じます。當方は一同健在豚も益々元氣ですが、腹がへりますと、ギー〳〵なきますので、お隣りの馬公連もたまげて居りますお陸で兎も食ひはぐれないといふ寸法です。次に本日松野場長殿よりお手紙をいただきましたので、同封いたしました。其御返事に別紙の通り書いて見ましたが、如何でせう。何れとも至急御返事を下さる樣御願申上げます。

十二月六日夜

拜復　六日附お便り二通、一昨日昨日と順達拜見、誠に有り難う御座いました。いろ〳〵御配慮、澤山な品々をお送り下されましたとか、本當に有り難う御座いました間もなく到着いたす事と、一同樂しんで居ります。それにお父さんとお母さんとが、御苦造り下されたとの事、眞に忝く存じます。屋根の方は、本日五十嵐さんに問ひ合せ、二三日中には參つて、猶よく話をして來る積りです。豚と馬の御注意之亦有り難う御座いました。馬場さん吉田さんに宜しく申上げて下さい。鹽と木炭はこちらでもやつて居ります。柿の皮を入れ、大根を細切りにして、水を少し多い加減に入れて、グタ〳〵と煮てやりますと、豚も喜んで食べます。非常に煮汁を喜んで食べますから、ぐん〳〵大きくなる事でせう。買つて來た時よりも、何だか大層大きくなつた樣だ等と話し合つてゐます。豚小屋は來年又樂山殖えた樣でしたら、新らたにたてるとしまして、目下の處は之で間に合せて置きたいと思ひます。一昨日より第四線道路の工事が始まりました。救濟工事で、七區八區の要救護者にやらせる方針なので小生もまた戸數割を納めて居ない爲に、其資格？があるそうであり、旁々此凶作時に、道路が我等の爲に、畑迄の道をつけて下るといふ事は、眞に勿體ない事で、之は是非共一鍬なりと、奉仕させて

清水山莊一週間献立表

（本文參照）

大内一郎

◎十二月一日　日曜
△朝食　黍飯　大根汁
（材料）米　黍　大根　味噌　鰹節　大根漬
△晝食　馬鈴薯あんかけ煮付
（材料）馬鈴薯　赤ざらめ　鹽　澱粉　醤油　鰹節　白絞油　たくわん
△夕食　煮込うどん　醤油　鰹節
（材料）干うどん　醤油　鰹節　白菜

◎十二月二日　月曜
△朝食　燕麥飯　わらび汁
（材料）米　燕麥　味噌　わらび　鰹節　たくわん
△晝食　蕎麥團子汁
（材料）蕎麥粉　大根　馬鈴薯　きやべつ　醤油　たくわん
△夕食　馬鈴薯鹽沈
（材料）馬鈴薯　大根　人參　鹽

◎十二月三日　火曜
△朝食　黍飯　白菜汁
（材料）米　黍　白菜　味噌　鰹節　大根漬
△晝食　馬鈴薯パン　ふき煮付
（材料）馬鈴薯　蕎麥粉　ふき　醤油　白絞油　鹽　バウダー　たくわん
△夕食　澱粉バター
（材料）澱粉　蕎麥粉　バター　白絞油　ゲアナ（草の實）大根漬

◎十二月四日　水曜
△朝食　燕麥飯　馬鈴薯汁
（材料）米　燕麥　馬鈴薯　味噌　鰹節　たくわん　梅干
△晝食　燕麥パン　煮魚
（材料）燕麥　蕎麥粉　バウダー　魚（ヤナギ）醤油　ザラメ　たくわん
△夕食　カレーポテトー
（材料）馬鈴薯　大根　キャベツ　小麥粉　カレー粉　鹽　たくわん

◎十二月五日　木曜
△朝食　黍飯　キャベツ汁
（材料）米　黍　キャベツ　馬鈴薯　鰹節　澤庵　らつきよう
△晝食　蕎麥まんじう
（材料）蕎麥粉　バウダー　鹽　ザラメ　大手亡　たくわん
△夕食　馬鈴薯グレーヴイ
（材料）馬鈴薯　白絞油　胡椒　食鹽　たくわん

◎十二月六日　金曜
△朝食　燕麥飯　大根汁
（材料）米　燕麥　大根　馬鈴薯　たくわん　らつきよう
△晝食　馬鈴薯パン　ふき煮付
（材料）馬鈴薯　蕎麥粉　ふき　白絞油　醤油　バウダー　鹽　たくわん
△夕食　天ぷらうどん
（材料）うどん　醤油　鰹節　魚（やなぎ）小麥粉　鹽　白絞油　たくわん

◎十二月七日　土曜
△朝食　黍飯　わらび汁
（材料）米　黍　わらび　鰹節　たくわん　らつきよう
△晝食　蒸パン　ふき煮付
（材料）小麥粉　赤ザラ　バウダー　ふき　白絞油　醤油　澤庵
△夕食　馬鈴薯油入麵
（材料）馬鈴薯　小麥粉　白絞油　鹽　らつきよう　たくわん

備考

一、一週間平均一人一日量
蛋白、三〇、六一。脂肪、一七、六二一。カロリー、三、一八八。
二、移住初年なるを以て、牛乳を得られざるを遺憾とす。
三、榮養價は目的に非ず手段なり
四、榮養學進み榮養不良多く、醫學進みて病人多し？

（附記）
本表は精確に罫線をひき、材料の分量、榮養量、カロリー等、詳細に記入し、一目瞭然たるものであつたが、印刷の都合上、以上の如く列記する事とした。（民惠）

内郷村報の六大使命

一、政綱政策を經經して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。
四、村内の善事美行を奬彰し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、會餘力を以て、國民善導に當る。

福祿壽

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社說は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

七福神を選出して、之を狩野松榮に描かせて、天下に宣布したのが、七福神の出來た由來なのであります。

天法人則
ニ從順ナ

は人望の神樣で如何に長生をして有福であつても、人望がなくてはならぬ。世の中の天をして、ニッコリ笑はせやうといふ、いかにも穩當な順序立てであります。別に辭財天と、ふ神樣もあるこになつて職人が、寒がらなくなつてからがよいさ思ふ等と、お母さんが行かれた時の話さは、又一寸ちがつて居りますので、さういふ風になるかと存じます。又折角見て職人にも話をしてと見度さなり、此頃の寒さは、全く本格的さなります。屋根仕事は確かに困難かさ思はれます。明後日の日曜には一同スキーの初乘りをいたす豫定です。今年掉尾に（十一本拔きまして、）大製薪拔根に（康で）すから御安心下さい。一同健から甚だ恐入りました。東京へ御註文の際軍手を御願申しました。東京の兄さんに出しました荷物が、御禮居の爲に、返却されて來ました。それと一緒に、燕麥を少々お送りいたしたかに、燕麥（六分）白米（四分）の御飯を食べて見て下さい。只今隣日位にたべて居ります。實際うまいものです。炊方は先つ米を入れて、燕麥を入れて、又カルトが煮え上る頃、燕麥と交ぜるとよいのです。其が煮て煮て、燕麥を少なくして、盛つて煮て、燕麥を多量にしてうか、云ひませうか、水を少々味をつけ、他の煮物等と食べて少すと、之を結構です。此前は之にまた前は、今晩は燕麥が大豆の煮かつたものを少々入れましたが、うまかつたでもやらう。等と話しました。昨夕は蕎麥まんじうにて居ります。砂糖あん、砂糖あん、四ケ宛を一人分にしましたが、之又仲々うまいで、二食分あるる樣です。其作り方は、粉にベーキングパウダーを少々入れ、湯を小さく手千切りかぬ程度にまれて包み、之を蒸しまげます。御送あんり下されて書物には、上に小麥粉砂糖等入れた書物樣書いてあります。書物も大變分り易くて書いてあります。書食は相變らず蒸パンで、大いに利用いたして居ります。今度は芋パン（芋とソバ）燕麥パン（燕麥とソバ）等もやつて見ました。まるで目の敵の樣にソバ粉を食へますので、二番粉も大分減つて參りました。來はもうすつかり人氣がなくなつて、朝少々利用される丈けで、空しく？櫃の中で冬眠して居ります。では之にて失禮いたします。二郎公及皆々樣によろしく御傳へ下さい。

十二月十三日

昭和八年八月十日第三種郵便物認可
内郷村報
昭和十一年一月一日發行
本紙定價一部金五錢一ケ年郵稅共金四十八錢
發行所　福島縣石城郡内郷村字宮深二
編輯兼印刷人　内郷村報社
編輯兼發行兼印刷人　右全所　大内民惠
印刷所　福島縣石城郡平町一丁目二九　平活版所